

リスクのモノサシ

NITE化学物質管理センター成果発表会
2007年6月21日

帝塚山大学 心理福祉学部
中谷内 一也

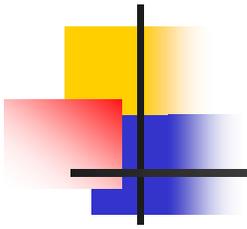
リスクコミュニケーションの強調点

- ◆ 一般国民を交えたリスク情報の共有が重要
- ◆ 定量的な視点が重要

まとめると、「定量的なリスク情報を、一般国民を含めた関係者間で共有することが重要」となる。

では、一般国民が定量的リスク判断をするようになってきたか？

⇒ そうともいえなさそう



何が不十分なのか？

◆ 一般国民を交えたリスク情報の共有か？

⇒ PRTRを始めとし情報開示は進んできていると思う。

◆ 定量的な視点か？

⇒ 定量的な情報も開示はされている。

足りないのは、わかりやすく、国民の関心に応じた定量的なリスク情報ではないか。

- ◆ところが、マスメディアからのリスク情報は「リスクがあるか・ないか」という定性的なものであるケースが多い。その背後には“専門家”がいる。

ex.「絶対に安全とはいえない」というコメント。

- ◆一方で、「リスクはないので、ご安心を」、「絶対に事故は起こしません」と説得にかかるリスク管理責任者もいる。

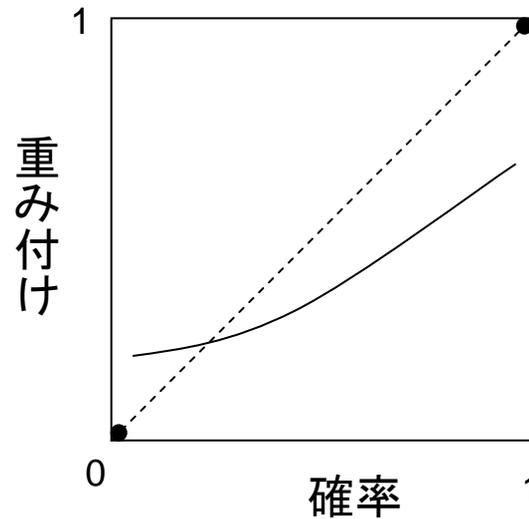


これらが情報を受けとめる側の心理学的な傾向と相まって、リスク情報に起因する社会的な問題を引き起こす。

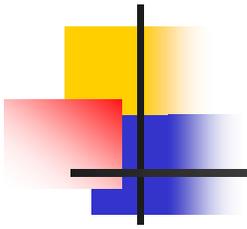
では、どのような心理学的傾向があるのか？

プロスペクト理論

- ◆ 「価値関数」と「重みづけ関数」で、私たちのリスク判断を説明する。



重み付け関数



ヒューリスティクス

- ◆ 人は課題を簡略化し、素早く判断を下すための独特の方法<ヒューリスティクス>を用いる。このため、直観的判断は大はずれはしないが正確ではない。

次に簡単な「人名記憶テスト」を行います。

吉永小百合 山本正人 松田聖子

秋吉久美子 北川智規 沢尻エリカ

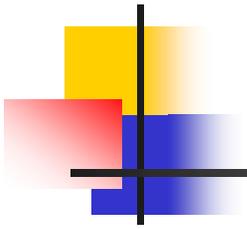
松原裕司 宮沢りえ 佐々木隆道

泉ピン子 浅野良太 藤田平

黒柳徹子 小野晃征

◆ 問題変更

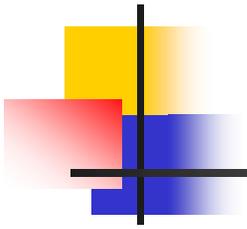
男性の名前と女性の名前、どちらが多かったでしょうか？



ヒューリスティクスの例

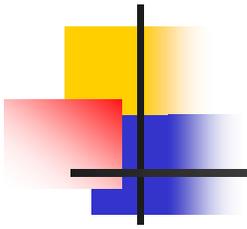
- ◆ 年間、サメで被害に遭う人の数は？

＜利用可能性のヒューリスティクス＞
＜投錨と調整のヒューリスティクス＞
＜代表性のヒューリスティクス＞
＜感情のヒューリスティクス＞など。



死亡率問題(1)

毎日、欠かさずタバコを1箱吸う人が
100人いるとしたら、そのうち何人が肺
ガンで死亡するでしょう。



再度、死亡率問題(2)

一口にガンと言っても胃ガンや乳ガンなどさまざまあり、近年は大腸ガンが増えている。また、脳卒中のような脳血管系の疾患や心筋梗塞のような心臓病も死因の大きな比率を占める。交通事故や近年増大してきた自殺で亡くなる中高年者も少なくない。

さて、欠かさずタバコを1箱吸う人が100人いるとしたら、そのうち何人が肺ガンで死亡するでしょう。

out of sight, out of mind 効果 (去る者日々に疎し効果)

- ◆ 当たり前のことでも、明示されないと判断するときの材料として考慮しない。

マスメディアの報道は、あまり知られていないことを、映像や画像の具体的証拠を示しながら報道する。

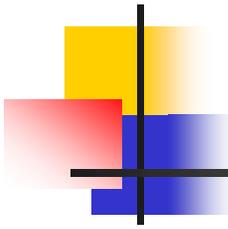
そのことと、これまで話してきた；

(1)「重み付け関数」の形状

(2) 利用可能性ヒューリスティクス

(3) 去る者日々に疎し効果

とが、あわさると、どのようなリスク認知が導かれるか？



定量的なリスクの扱いへと状況が改善されにくい他の理由

- ◆ 二値的判断の低認知負荷
- ◆ 豊かな社会での対処行為の容易さ
- ◆ 程度を伝えるための取り組みの立ち遅れ

新規な事物の“程度”を伝えるための有力な方法

➡ 既知の事物と比較する相対化
(例: 凶器の大きさを示すためのタバコ箱)

しかし、これまでリスク比較はあまり受け入れられなかった。
主な理由は、恣意的に比較対象が設定されるから
(例: 米産輸入牛肉の脊柱混入時のペン農務次官発言)

だからといって「相対化による程度の表現」が役に立たないというわけではない。
ならば、恣意的ではない相対化を工夫すればどうか。

リスクを定量的にわかりやすく伝えるための 標準化された「リスクのモノサシ」の提案

- ◆ 一定のリスク比較セットを作成し、リスクの大きさを示すとき、情報の送り手がその中に位置づけて示す。
- ◆ 政府がリスク情報を出すときの資料として率先して利用し、マスメディアや企業にも利用を促す。

ガン	250
自殺	24
交通事故	9
火事	1.7
自然災害	0.1
落雷	0.002

(10万人あたりの年間死亡者概数)

たとえば、アスベストのリスクを報道 するときなら;

ガン	250
自殺	24
クボタ旧神崎工場 周辺居住歴女性 の中皮腫	12.9
交通事故	9
火事	1.7
自然災害	0.1
落雷	0.002

(10万人あたりの年間死亡者概数)

BSEのリスク

ガン	250
自殺	24
交通事故	9
火事	1.7
自然災害	0.1
落雷	0.002
牛肉食による vCJD	>0

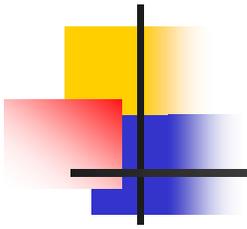
(10万人あたりの年間死亡者概数)

入浴のリスク

ガン	250
自殺	24
交通事故	9
入浴中の水死	2.4
火事	1.7
自然災害	0.1
落雷	0.002

(10万人あたりの年間死亡者概数)

タミフル服用のリスクも、母集団も示さずに〇〇人
死亡とするよりも、このように情報提示しては？



予想される問題点

◆健康影響や環境影響を考慮しないのか？

⇒ 人命が何より大切なことから、まずはそれをエンドポイントとしたモノサシを考えた

◆この表は、さまざまな行為の結果としての死亡を表現しており、特定の行為のリスクを表していない？

⇒ そのとおり。平均的な生活をすることの全体的リスク

◆年間死亡統計よりも損失余命の方が適切では？

⇒ 社会調査でどのような仕様が適切かを検討

その他、一元的で歪みのないことが求められる
本来の“モノサシ”からみると問題はある。
測定のためのモノサシであることよりも、理解補
助のためのモノサシであることに留意し、社会調
査をすれば、よいものが作れるであろう。

以上です。ありがとうございました。